

## R5 年度 学習の手引き（シラバス）

2	学年	教科・科目	工業・実習（ブ）	単位数	4	担当者	高木・山下・横沢
---	----	-------	----------	-----	---	-----	----------

### 1、教科書・副教材

工業技術基礎
--------

### 2、科目の目標

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ものづくりをとおして，工業の発展を図る意欲的な態度を育てる。</li> <li>・木材加工に関する基本的な技術を体験させる。</li> <li>・使用材料の性質を理解させ，機械や道具を適切に使用活用させる。（安全教育の徹底）</li> </ul>
---

### 3、学習の計画

	月	学習項目	学習のねらい	時数	考査範囲
前期	4月	①家具の製作（小・中型作品） ・設計	・作品の設計と製図	70	
	5月	①家具の製作（小・中型作品） ・加工	・部材名称と構造の確認 ・部品づくり		
	6月	①家具の製作（小・中型作品） ・加工，組立て	・部品づくり ・木地調整，組立て		
	7月	①家具の製作（小・中型作品） ・組立て	・組立て		
	8月	①家具の製作（小・中型作品） ・組立て	・組立て		
後期	9月	①家具の製作（小・中型作品） ・木地調整，木地着色	・木地調整，木地着色	70	
	10月	①家具の製作（小・中型作品） ・木地調整，木地着色	・木地調整，木地着色		
	11月	①家具の製作（小・中型作品） ・塗装，仕上げ	・目止め（中塗り），表面研削，仕上塗装 ・ガラス，建具，金具取り付け		
	12月	①家具の製作（中・大型作品） ・加工	・部材名称と構造の確認 ・部品づくり		
	1月	①家具の製作（中・大型作品） ・設計	・作品の設計と製図		
	2月	①家具の製作（中・大型作品） ・設計	・作品の設計と製図 ・作品の発表		
	3月				

### 4、評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	・材料や道具を適切に使用しながら、実習の内容を理解し、安全に作品製作ができたか	レポート・課題提出
思考・判断・表現	・材料や道具を適切に使用することができたか	設計・製作過程・作品の完成度
主体的に学習に取り組む態度	・授業に参加・積極的な態度で課題や授業に取り組むことができたか	出席日数・実習態度

### 5、学習にあたっての注意とアドバイス

学習成果は『インテリア科生徒作品展示・即売会』を中心に発表させる。
-----------------------------------

## R 5 年度 学習の手引き（シラバス）

2	学年	教科・科目	工業・実習（デ）	単位数	4	担当者	久保田・早川
---	----	-------	----------	-----	---	-----	--------

### 1、教科書・副教材

デザイン技術、インテリアエレメント生産

### 2、科目の目標

- ・造形活動の基礎的な知識と技術を習得させ、実践的な態度の定着を目指す。
- ・基礎的な技術を実際の作業を通して総合的に習得させる。
- ・技術革新に主体的に対応できる能力と態度を育てる。

### 3、学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考査範囲
前 期	4月	①課題作品の説明（年間） ②色彩	①隔週で課題に取り組む。（発想力とプレゼンテーション） ②色彩の基礎知識	70	
	5月	①人物イラストレーション	①ポスタライゼーション ・メディア機器の活用と表現効果。		
	6月	①人物イラストレーション	①ポスタライゼーション ・制作		
	7月	②公募ポスター制作	②公募ポスターの募集要項、役割について ・図案構想		
	8月	①公募ポスター制作 ・エスキース、資料集め、制作	①明示度・視認性と色彩計画 ・画面構成・配色など表現効果の工夫・制作		
	9月	①公募ポスター制作	①公募ポスター制作 ・制作		
後 期	10月	①照明制作（グループ制作）	①照明の役割と効果 ・調査・デザイン・試作 ・制作	70	
	11月	①照明制作（プレゼンテーション）	①照明のプレゼンテーション		
	12月	①文化祭ポスターの制作 ②専門科展の企画	①広告デザイン ・視覚的要素・言語的要素と特性 ②展示会の企画と運営の仕方		
	1月	①文化祭ポスターの制作 ②専門科展の企画	①作品制作 ②展示会の企画と運営の仕方		
	2月	①文化祭ポスターの制作 ②専門科展の企画運営	①作品制作 ・仕上げ ②専門科展の企画と運営の仕方		
	3月				

### 4、評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	・デザインの役割、実習の内容を理解し、基礎知識を活用することができ、作品に表現することができたか	レポート・課題提出
思考・判断・表現	・画材を適切に活用することができたか	設計・製作過程・作品の完成度
主体的に学習に取り組む態度	・授業に参加・積極的な態度で課題や授業に取り組むことができたか	出席日数・実習態度

### 5、学習にあたっての注意とアドバイス

学習成果は『インテリア科生徒作品展示・即売会』を中心に発表させる。

## R 5 年度 学習の手引き（シラバス）

2	学年	教科・科目	工業・製図（ブ・デ）	単位数	2	担当者	山下・保科
---	----	-------	------------	-----	---	-----	-------

### 1、教科書・副教材

インテリア製図
---------

### 2、科目の目標

<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本産業規格に基づいた製図の基礎や図学について理解させる。</li> <li>・製作図や設計図を正しく読み、図面を構想し作成する能力と態度を育てる。</li> <li>・レタリングやトレースに関する知識と実践的な技術を習得させる。</li> </ul>
--

### 3、学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考査範囲
前 期	4月	①レタリング（文字のデザイン） ②立体図法（二消点透視図法）	①製図用具を適切に活用。 （一年次の復習と応用） ・明朝体やゴシック体の書体を理解。 ②立体図法のひとつである二消点透視図法を理解。 ・幾何形体をグラフにポイントを理解。 ・二消点透視図法について理解。  ※文部科学省後援レタリング技能検定実施	35	
	5月				
	6月	※検定実施			
	7月	①トレース			
	8月	②日本産業規格の理解			
9月		②製図に関する日本産業規格について理解			
後 期	10月	①立体図法（室内パース）	③小物木製家具（小箱）を二消点透視図法で表現。 （ペン描き、水彩絵の具による着彩）  ※文部科学省後援トレース技能検定実施  ①第三角法投影図と二消点透視図によって表現させる。 P：中型の木製家具をテーマにプランを考えさせる。 D：室内の表現をテーマにプランを考えさせる。 ②パースの着彩とプレゼンテーション	35	
	11月				
	12月				
	1月				
	2月				
3月					

### 4、評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	・製図における文字・図面・線の意味を理解し、イメージを適切に表現し、発表することができたか	課題提出
思考・判断・表現	・JIS規格を理解し適切に表現することができたか	設計・製作過程・作品の完成度
主体的に学習に取り組む態度	・積極的な態度で課題や授業に取り組むことができたか	実習態度・出席日数

### 5、学習にあたっての注意とアドバイス

<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習成果は『インテリア科生徒作品展示・即売会』を中心に発表させる。</li> </ul>
--

## R 5 年度 学習の手引き（シラバス）

2	学年	教科・科目	工業・工業情報数理（ブ・デ）	単位数	2	担当者	保科
---	----	-------	----------------	-----	---	-----	----

### 1、教科書・副教材

精選工業情報数理、ワープロ技能検定、エクセル技能検定
----------------------------

### 2、科目の目標

<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報活用の基礎となる様々な情報手段の特性を理解させる。</li> <li>・望ましい情報社会の創造に参画する態度を育成する。</li> <li>・課題や目標に応じて情報手段を適切に活用することのできる能力を育成する。</li> </ul>
---

### 3、学習の計画

		学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前期	4月	①到達目標の明確化	・2年次の到達目標を定める。	35	
	5月	②情報モラル ③ネットワーク ④セキュリティ	・使用教室、ネットワークシステム、インターネット、モバイル情報機器（利用する場合のモラルについて） ・LAN, WAN, インターネットの発展利用 ・グループウェア・イントラネットの概要 ・ネットワーク犯罪とセキュリティ		
	6月	①文書作成ソフト(Word)で、文書作成の基礎・基本を学習する。	・書式の設定方法 (用紙サイズ、余白、フォント、ポイントなど)		
	7月	②日本語ワープロ検定過去問を使用し、タイピング練習。 ③文書デザイン検定練習  ※文書デザイン検定	・日本語ワープロ検定過去問を使用し、文字入力能力を高める ・図形、画像の挿入・編集の仕方を習得する ・文書デザイン検定過去問を使用した実践的練習  ※文書デザイン検定により成熟度確認		
	8月	①表計算ソフト(Excel)で、表作成、計算処理の基本を学ぶ。	・Excel の使い方 (構造、セル、グラフ、関数、罫線など)		
9月					
後期	10月	②表計算検定過去問を使用し、検定練習を行う。	・グラフの挿入、編集 ・表計算検定過去問を使用した実践的練習	35	
	11月				
	12月	※表計算検定	※表計算検定により成熟度確認		
	1月	①プレゼンテーション実習導入	・実習等で制作した作品のプレゼンテーション ・プレゼンテーションソフトを活用した発表の計画と練習		
	2月	②プレゼンテーション実習と発表	(参加者の評価型プレゼンテーション)		
3月					

### 4、評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技術	・プレゼンテーションソフトの基礎について理解することができたか ・表計算ソフトの応用的活用について理解ができたか	実技テスト
思考・判断・表現	・計画通りに発表することができたか	製作過程・作品の完成度
主体的に学習に取り組む態度	・授業の参加・積極的な態度で課題や授業に取り組むことができたか	出席日数・実習態度

### 5、学習にあたっての注意とアドバイス

--

## R 5 年度 学習の手引き（シラバス）

2	学年	教科・科目	工業・インテリア装備	単位数	2	担当者	保科
---	----	-------	------------	-----	---	-----	----

### 1、教科書・副教材

インテリア装備
---------

### 2、科目の目標

インテリア装備に関する基礎的な知識を習得させる。
--------------------------

### 3、学習の計画

	月	学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前 期	4月	インテリアを支える建築の構造 ・建築の歴史と各種構造	・建築構造の種類と歴史の変遷の理解 ・木構造の特徴、地業・基礎・軸組・床組 小屋組の理解	35	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建築構造の種類と歴史の変遷</li> <li>・木構造の構成</li> <li>・下地工法と仕上げ</li> <li>・造作と建具</li> </ul>
	5月	木構造・鉄筋コンクリート構造鋼構造 ・木構造の構成 ・鉄筋コンクリート構造の構成	・床、壁、天井の下地材仕上材の関係を理解 ・鉄筋コンクリート構造の特徴、材料と 施工、主体構造、防水について理解する 床壁天井の下地材仕上材の関係を理解		
	6月	※定期考査実施  ・鋼構造の構成 ・その他の構造 インテリアの施工法	※学習内容の定着度を確認  ・鋼構造の特徴・材料の接合方法・基礎 骨組、耐火被覆について理解する		
	7月	・インテリア施工の概要 ・床の下地と仕上げ 下地工法・張り仕上げ 塗り仕上げ・敷き仕上げ	・インテリアの仕上材、それを支える下地 について理解する		
	8月				
9月	※定期考査実施	※学習内容の定着度を確認			
後 期	10月	・壁下地と仕上げ 下地工法・張り仕上げ・塗り仕上げ ・造作	・インテリアの仕上材、それを支える下地 について理解する	35	<ul style="list-style-type: none"> <li>・温熱、音、光環境</li> <li>・空調、冷暖房設備</li> <li>・給水、給湯、排水設備</li> <li>・キッチン、サニタリー</li> </ul>
	11月	和室の構造・洋室の構造 ・開口部の構造 ・階段の構造			
	12月	※定期考査実施 住宅の維持保全とりホーム ・ライフサイクルコスト	※学習内容の定着度を確認  ・建築物インテリアの維持管理の概要につい て理解する		
	1月	・維持保全の方法 ・住宅のリフォーム			
	2月	マンションにおける注意点 建築設備 関係法規 ※定期考査実施	・給排水などの衛生設備と空調和設備 建築基準法および関係法規を理解する ※学習内容の定着度を確認		
	3月				

### 4、評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技術	・インテリアと設備・力学の繋がりについて理解し、表現することができたか ・知識や理解の度合いを定期テストで確認	定期考査
思考・判断・表現	・課題に対して、より深い思考や判断ができたか	課題提出
主体的に学習に取り組む態度	・授業に参加し課題・授業に積極的に取り組むことができたか	出席日数・授業態度

### 5、学習にあたっての注意とアドバイス

--

## R 5 年度 学習の手引き（シラバス）

2	学年	教科・科目	工業・インテリアエレメント生産	単位数	1	担当者	山下
---	----	-------	-----------------	-----	---	-----	----

### 1、教科書・副教材

インテリアエレメント生産
--------------

### 2、科目の目標

<ul style="list-style-type: none"> <li>・家具の強度の考え方を理解させる。</li> <li>・建具，テキスタイル製品，壁層材料，照明の用途，種類および構造について理解させる。</li> <li>・木工機械の種類と特徴，安全な作業方法，NCの特徴，プログラミング初歩を理解させる。</li> </ul>
--

### 3、学習の計画

	学習項目	学習のねらい	時数	考查範囲
前期	4月	インテリアエレメントの構造	18	①②③④
	5月	以下の点を理解させる ①家具の強度 ②建具（分類，内部用建具，外部用建具，金具） ③テキスタイル製品（カーテン） ※学習内容の定着度を確認 ④テキスタイル製品（カーテン，カーペット） ※学習内容の定着度を確認		
	6月	⑤テキスタイル製品（ホームリネン） ⑥窓回り部品（カーテン，スクリーン，ブラインド）		⑤⑥①②
	7月	インテリアエレメントの構造		17
	8月	①照明 光源の種類 ②壁装材料（種類，特性） (照明分類，器具と取り付け位置，防災照明) ※学習内容の定着度を確認		
9月				
後期	10月	生産技術	17	①②③
	11月	①木材加工機械と安全 ②木材加工機械（加工種類と機械，特徴） ※学習内容の定着度を確認 ③木材加工機械（加工種類と機械，特徴）		
	12月	生産技術		①②
	1月	①数値制御工作機械 (NCルータの作用，加工，プログラミング)		
	2月	②数値制御工作機械（プログラミング演習） ※学習内容の定着度を確認		
3月				

### 4、評価の方法・観点

	評価の観点の趣旨	主な評価方法
知識・技能	・各単元について理解することができたか ・室内パーツと工作機について理解できたか	定期考査
思考・判断・表現	・インテリアエレメントの知識と工作機の基礎的な活用ができたか	課題提出
主体的に学習に取り組む態度	・授業に参加し課題・授業に積極的に取り組むことができたか	出席日数・授業態度

### 5、学習にあたっての注意とアドバイス

--